

[4]

氏 名 (本籍)	内海佐和子 (東京都)		
学 位	博士 (学術)		
学位記号番号	博乙第23号		
学位授与年月日	平成13年3月8日		
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当		
論 文 題 目	ヴェトナム ホイアンにおける町並み景観の変容 に関する研究		
論文審査委員	(主査)	教 授	平井 聖
		教 授	芦川 智
		教 授	安宅 信行
		教 授	井内 昇
		千葉大学 教 授	福川 裕一

論 文 要 旨

本論文は、ヴェトナム・ホイアンにおける町並み景観の変容に関する研究と題し、序章および第Ⅰ章・第Ⅱ章・第Ⅲ章・第Ⅳ章・終章からなっている。

序章「研究概要」：本研究の背景と全体的な目的を示し、調査概要を述べた。また、現在までの関連研究を踏まえた上で、ヴェトナムの歴史的町並みを研究対象とし、5年間という長期に渡って継続的に、町並みへの影響および住民に主眼を置いて、景観誘導条例の施行前後両面の反応について検証している、といった本研究の特色を述べた。

第Ⅰ章「ホイアンの町並みの概要」：本研究の対象となるホイアンの歴史的町並みの現状を検証し、町並みの価値および現在の町並みと町家が抱える問題点を提示すると共に、町の観光化が著しく進行していること、また、観光化に伴って商品の溢れ出しや看板の大型化などが発生することにより、町家のファサードが煩雑になり、町並みの景観に影響を与えている現状について述べている。

第Ⅱ章「町並みの観光化の影響と条例による業種のコントロール」：観光地としての発展に伴う町並みにおける業種の変容に対し、市は業種の転換禁止条例を1997年7月に施行し、そのコントロールを試みた。そこで、ホイアンの歴史的町並みの中でも最も古く、人通りの多い通りであるチャン・フー通りにおける業種の観光変容、観光産業の分布の変化、業種の観光化による建築物の変化を、5年間に渡り記録して、それらの変化が町並みや住民におよぼす影響と条例の効果을明らかにしている。その調査から、業種の転換禁止条例は住民への認知度が低く効果が見られなかったこと、経済的余裕が生ずると更に改造するといった悪循環が発生して、町並みの景観に影響をおよぼしていることを明らかにしている。

第Ⅲ章「観光化に伴う町並み変容と条例によるコントロール」：観光地としての発展に

伴う町並み景観の変容に対し、市は95年3月、8月、97年5月、7月に条例によるコントロールを試みた。そこで、チャン・フー通りを対象とし、町並み誘導条例毎に条例の効果と住民の対応関係を調査し、町並みにおける景観誘導条例の影響を明らかにしている。溢れ出しおよび看板に関する条例は、観光客に建物を見せないと観光客が減るといった論理から、一応の効果を発揮している。一方、溢れ出しの条例では、逆に規制線ギリギリまで商品を並べる店舗が増加し、規制が許容範囲を示したと言える。色彩に関する条例は、町並みにとってふさわしい色についての議論や指導が不十分なために、効果が上がっていない。一方、住民が条例の主旨を理解して遵守している部分もあるものの、同時に自らの要求や嗜好のために抜け道も見つけ出すというパターンの繰り返しとなっていることを明らかにした。

第IV章「町家のファサードの変化」：調査対象のチャン・フー通りの町家には、初回調査の1994年3月時点で既に改造が多く見られ、町家の伝統的なファサードの形式を留めた事例は少なかったが、近年は町の観光化に伴い、町家の所有者が自発的に伝統的な形態に戻そうとする修復や新築事例が見られ始めた。しかし、その内容は、必ずしも代表的な町家の形式に則しているとは限らない。そこで、本章では、対象にグエン・タイ・ホック通りの修復事例を参考に加え、町並み保存に影響をおよぼす住民や行政などによる町家のファサードそのものに対する変化の様子を具体的に考察し、修復・新築における問題点を明らかにしている。近作のファサードの変化は、町家の所有者の居住環境や商売の都合によって、代表的な町家の形式から外れた形式へと変化しているが、所有者の生活を考慮すると一概に、原型に近い形式に修復させることには無理があるため、望ましい修復の方法や望ましくない方法の指針を用意する必要があること、また、現場を扱っている遺跡管理事務所などに、町家のファサードの代表的形式の判断基準が必要なことや、町家の形式に関する専門知識を有する人員および現場管理の知識を有する人員の配置が、必要なことを指摘した。

終章「まとめ」：本章は、ここまでの結果を受けて、町の観光化によるホイアンの歴史的町並みおよび住民への影響と、市が施行した条例による町並み保全活動の効果について考察し、それを受け、今後の課題と今後のホイアンのあるべき姿を提示している。

審査報告要旨

この論文は『ヴェトナム・ホイアンにおける町並みの景観の変容に関する研究』と題し、古くから海のシルクロードの貿易拠点として繁栄し、16世紀の終わりから17世紀の始めにかけて御朱印船の寄港地の一つとして日本人町が存在したことがある、ヴェトナム社会主義共和国クアンナム省ホイアンに残る、18世紀以降に建てられた家々によって構成されたチャンフー通りの町並みを対象として、1994年3月から5年間に10回の歴史的町並みを構成する町家立面の連続的な観測を行ない、観光化が急速に進む中で歴史的町並み景観の保全のために施行された幾つかの規制の効果と問題点を明らかにすることを試みたもので、

序章および本論5章から成る。

まずはじめに、序章としてヴェトナム中部の町ホイアの歴史的町並み保存に伴って行われたさまざまな指導・規制などが、歴史的町並みの景観にどのような具体的な影響を与えたかを、1994年3月から1999年3月の5年間に行った10回の立面調査にもとづいて検討した研究の経過と、ホイアの歴史的町並み、ひいてはヴェトナムにおける歴史的景観の保全に示唆を与えようとする研究の目的について述べている。

第1章「ホイアの町並みの概要」では、第2章から第4章までの背景となるホイアの歴史的町並みとこれを構成する家屋の現状についての調査の概要、および歴史的町並みが観光化によって見せる変容ならびにこれに伴って発生した様々な問題点について総括して述べている。

第2章「業種の観光変容による影響と条例によるコントロール」では、観光化に伴って起こった業種の変容が町並みに影響を与え始めたことを受けて、1997年7月にホイアン市が施行した業種の転換禁止の規制について、規制前と後の町並み調査に現れた変化と、住民のこの規制についての認識調査にもとづいて、この規制の効果がほとんど見られなかったのは、住民の認知度が低かったことによると述べている。あわせて、観光化による経済効果が業種の変容をもたらし、町並みの歴史的景観に影響を及ぼしている状況について述べている。

第3章「観光化に伴う町並み変容と条例によるコントロール」では、ホイアン市が観光化に伴う歴史的町並みの変容に対して行った安全ならびに景観に関する5種の規制について、その前後の調査からその原因となった商品等の歩道への溢れ出し、看板掲出のしかた、外観の色彩に対する規制がどのような効果をもたらし、問題点を残したかを解析して、歩道への溢れ出しと看板掲出の仕方については、効果が見られる一方で規制の範囲までは許されたものとする逆の影響が見られたこと、色彩について効果があがっていないのは、ふさわしい色に関する議論あるいは指示がないままに行われたところに原因があると述べている。

第4章「町家のファサードの変化」では、対象としたチャン・フー通りを構成する町家に、その裏のグエン・タイ・ホック通りの修復事例を加えて、歴史的町並みを構成する代表的な伝統的形態の町家の形式を想定し、現況までにいたる変化の経過を5年間の調査と修復事例から明らかにした上で、所有者の生活を配慮した上での望ましい修復のあり方を提示する必要があること、今後の歴史的町並み保全の為に町家の様式や修復工事についての知識を有する人材の確保が課題であることについて述べている。

終章「まとめ」は、本研究の総括で、観光化がもたらした住民ならびに伝統的町並みへの影響と、規制による歴史的町並み保全に対する働きかけの効果を、歴史的町並みを構成する町家立面の連続的・継続的観察から導き出そうとした本研究のまとめである。加えて、調査した5年間に町家の所有者の中に、歴史的町並みの価値を認め保全して行こうとする気運が認められるようになったこと、その端緒が行政が日本チームとの協力のもとで歴史的町並み保全を進めてきたことにあること等について付言している。

これを要するに、本研究は観光化が急激に進んだホイアンの歴史的町並みの観光化が始まる直前の1994年から、一定の落ち着きをみせる1998年までの5年間にわたる継続的な景観調査から、市が行った規制の成果と家屋立面の変化の原因を解析して、ホイアンの歴史的町並みの今後の保全と、ヴェトナムにおける歴史的景観の保全に示唆を与えるもので、審査員一同博士（学術）の学位論文として十分な価値があるものと認める。